

## 尿希釈ガイド

尿が混濁し、沈渣物同士が重なっている場合、ニューラルネットワークでの有形成分の識別が難しくなることがあります。その場合、尿を希釈することで識別や分析ができるようになることがあります。

この尿希釈ガイドは、セディビューDxの検査前後の尿希釈について解説し、最小限の希釈や再測定で効果的な検査の実施に役立ちます。

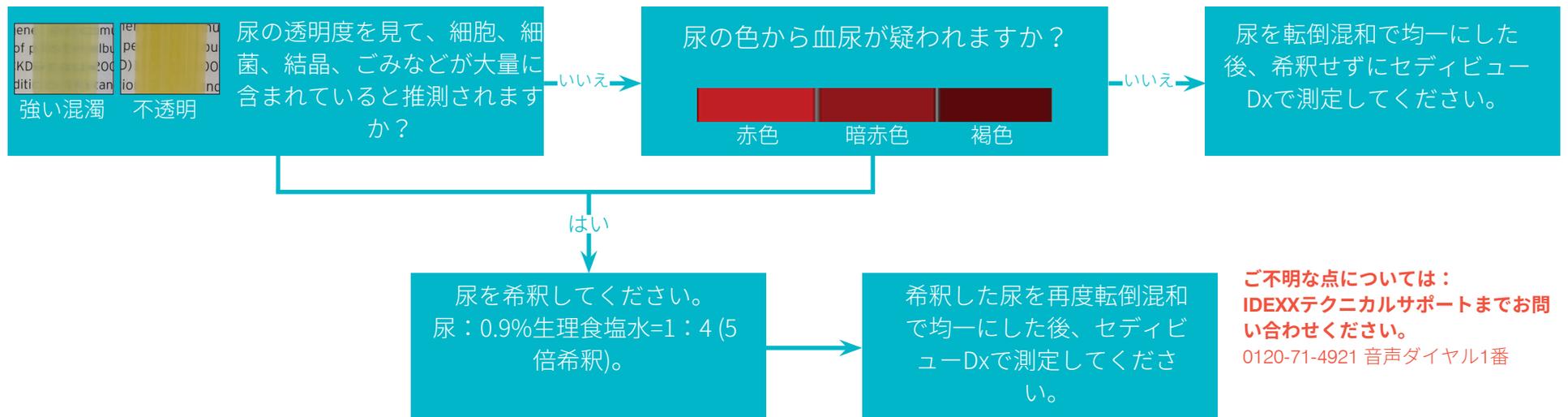
**注：尿の希釈はpHや浸透圧に影響を与えることがあります、その結果、細胞形態や結晶の有無に変化を及ぼす可能性があります。**

## 測定前の希釈

尿の物理的性状（濁度と色）の観察時に、細胞、細菌、結晶、ごみ、血尿などで混濁や着色が明らかな場合は、セディビューDxを使用する前に尿を希釈することをお勧めします。

以下のガイドラインを参考に、セディビューDxの使用前に尿を希釈するかを検討してください。

**注：再検査が必要になった場合を考え、希釈前の尿の一部を別の容器に保存することをお勧めします。**



## 測定後の希釈

混濁した尿をセディビューDxで測定した場合、半定量結果が完全に出ず、希釈が必要になる可能性があります。その際は表示された沈渣画像によって、どの程度希釈すべきかを判断してください。

- 沈渣画像から臨床像が判断できる場合、検査結果に希釈を推奨するメッセージが表示されたとしても、希釈・再測定は必要ありません。<sup>1</sup>
- 沈渣画像から臨床像が判断できない場合、希釈した検体での再測定により、より正確な分析ができる可能性があります。希釈の程度は尿の濁度によって異なります。以下のガイドラインを参考に、希釈検体で再検査を行うか検討してください。

## 沈渣画像から臨床像の判断が可能か？

希釈を促すメッセージが出て、画像から臨床像が判断できる場合は、希釈の必要はありません。<sup>2</sup>

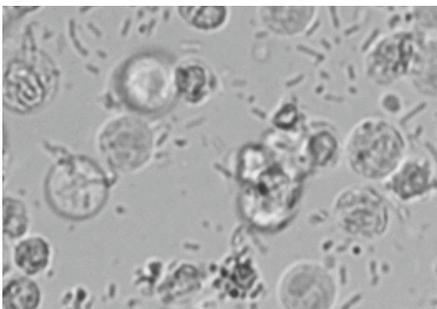
## 尿の希釈方法<sup>†</sup>

1. 「検査機器の選択」画面で、**希釈測定**を押し、何倍希釈かを入力して「**測定**」を押しします。
2. 検体チューブに定めた割合で尿と**0.9%生理食塩水**を加え、10回転倒混和します。
3. ただちに**165 $\mu$ L**の希釈した尿を吸引し、カートリッジに注入します。
4. セディビュー Dxのスタートボタンを押して測定を開始します。

<sup>†</sup>IDEXXベトラボステーションのバージョン4.48以降が必要です。

はい

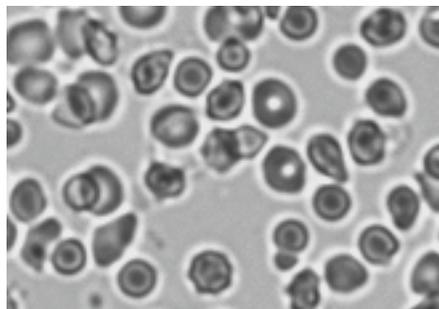
沈渣画像から臨床像を判断可能  
(細菌尿や膿尿など)



希釈不要

やや沈渣物が多い=背景がやや見える

(明らかな血尿；細菌が隠れている可能性がある)



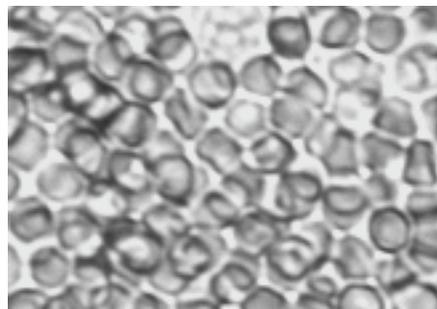
希釈を検討

尿：0.9%生理食塩水<sup>3</sup>=1:1  
(2倍希釈)

いいえ

沈渣物が多い=背景がほとんど見えない

(明らかな血尿；その他の有形成分が隠れている可能性がある)

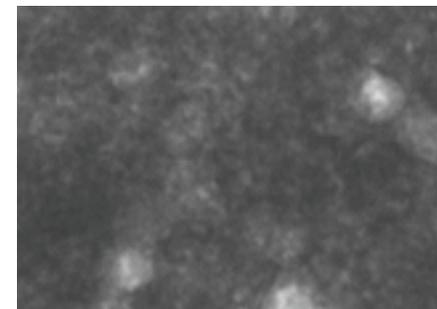


要希釈

尿：0.9%生理食塩水<sup>4</sup>=1:4  
(5倍希釈)

沈渣物で埋め尽くされている=背景が見えない

(沈渣物が重なり、希釈せずに有形成分の判定ができない)



要希釈

尿：0.9%生理食塩水<sup>4</sup>=1:9  
(10倍希釈)

軽度の混濁

重度の混濁

<sup>1</sup> 気泡や光学レンズの汚れが原因で希釈フラグが出ることがあります。

<sup>2</sup> 24時間以内に同じ患者に対して検査を実施する場合、最初の1回分の検査費用だけが請求されます。希釈を含む、同じ患者の複数回の検査費用は請求されません。

<sup>3</sup> 細菌の確認は、希釈よりも尿の乾燥・染色塗抹標本の方が適していることがあります。

<sup>4</sup> 尿の希釈倍率が高いほど、pHや浸透圧への影響が大きくなるため、細胞形態や結晶の有無に変化を及ぼす可能性があります。